



リすぼん丸—船長、ミラ—広ッセル  
樂洋丸—海軍ニ任ス

(鉛筆書き)

(ペン書き)  
泊当市

4: (Name)

ふら—る丸資料

一、高雄、一般、状況

(鉛筆書き)  
(高雄砲台司令部ハ員)

1. 空襲、状況、シラ皮切りニ、六日九日ニ亘リ機動部隊、

空襲アリ、特ニ六、九日、両日ハ少クモ延百機以上、攻撃

ヲ受ケタリ、目標ハ主トシテ船舶及一部市街地ナリキ、

之ガ為一般市民、動搖大ニシテ勞務力分散シ計画的

港灣荷役、如キモハ殆ト不可能、状況ニ在リタリ、江

浦丸ハ当時港内ニ在リ(手旗信號可能ノ範圍ニ位置

シタリタリ)  
船舶ニ対スル給炭、給水、能クハ勞務ノ莫ニ於テ著シク低  
下シタリタルモ施設ヲ破壊セラレザリシヲ以テ空襲ノ間隙  
ヲ利用シテ予テ実施可能ノ状態ナリキ

2. 給食、状況

食糧中主食ハ一部船舶ニ対スル補給モ可能、状態ニ在  
リタリ、但シ生野菜、生魚、肉等ニ至リテハ極度ニ逼迫シ  
部隊乗船モ船舶ニ対スル補給モ至難、状況ニ在リタリ、  
高雄ニ於ケル江浦丸滞船、理由ニ就テハ明確ナラザルモ内地  
向ケテ護衛便、肉係ト考ヘラル。

当時中央ハ素ヨリ現地ニ於テモ船舶不足、折柄極度  
ノ航行率向上ヲ要求セラレ萬策ヲ盡シテ出航ヲ促進  
シタリタル實情ニ就キ俘虜乗船ナルガ故ニ出航ヲ第三義  
的ニモストハ絶対ニテリ得サルコトナリ。

二、高雄滞船、俘虜ヲ上陸デレメザリレ理由



Doc 2662 Part 19

当时、高雄ニ於ケル陸上施設、極々不備ニシテ、止ムを得ズ、  
 校ヲ使用スルニ至ルニ、宿舎ニテハ不足ニシテ、状況ナリキ（注）  
 待待軍勢トハ當時ハ湾ヨリ比島方面ニ進出（進出）  
 第十師團及第十九師團（一部）  
 従来ニ於テ高雄一般ニ宿舎施設不備ニシテ、滞船ニ船  
 舶ニ乗船シ日本軍勢ハ勿論侵襲者ト雖モ上陸休養ヲ  
 ハルヲ建前トシテ状況ナリキ。  
 自陸上施設、不備トシテ止ムニ至ルニ、停船監視、困難假  
 等アリキ、乗船、僅滞船ニシテ止ム（本件、停船  
 輸送指揮官及石藤部隊長田太尉ニ就テ調査（本件  
 時事情判明スル）

二、内司三卷之状況、一班(第一船司中参考課)

一、船位繪圖

門司於日輕所八日本兵用食器二約八分目、米、麦、食、卜、汁、漬物、二、七、五、兩、二、於、之、本、兵、給、上、卜、是、云、之、

（三）六、五、四、三、二、一、零、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、

(一) 第一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

3. 停虜中、病々發生ニ爲シ、命爲害ヲ招キ、更ニ戰友愛ニ  
 ヲル相互看護アリント相保タリント不拘病人ニ提供セシ  
 ヲル食糧ヲ他ノ健全ナル停虜力之ヲ横取りシ爲シ益々病  
 、健康ヲ害ス例多カリント。

4. 重病は患者、被服ヲ健全ナル侍房ガ剃奪着用品ヲ奪  
取リ被服ハ全ク醜狀ニ成リタリ。

Doc 2662 Part 17

5. 健康ナルモハ同ガナリシ「全」ヲ 三箇モ腰ニコウ下ニタレ者  
ニリタリ。
6. 停虜輸送指揮官ト談合セル際偶談第三第四項、  
五項ニ及ビ時貴官ニ於テ更ニ監督ザリシヤト言ハルニ対  
シ如何ニ注意スルモ駄目ナリ、輸送中病ニナレバ誠ニ哀  
ナリト云リ。

### 樂洋丸ニ対スル停虜救助ニ関スル抗議

本件ハ其ノ實狀セル事項ハ殆ト海軍ニ関係セルヲ以テ現ニ  
海軍側ニ於テ調査中ナリ、調査完了時期不明、海軍  
ニ於テ處理セルニ適宜ト認め。